

No.217

梅の開花が一早く私たちに春の訪れを教えてくれ、桃の節句を過ぎたころから、日差しもだんだん暖かくなってきました。寒い冬の間、冬眠していた動物や虫たちも春の到来を感じ、そろそろ顔を出す頃です。春の光は、私たちにも動物たちにもエネルギーを与えてくれます。今月も私たちはエネルギーシユにがんばっています。

最近、話題の地球温暖化対策。京都議定書の発効で、CO₂の削減を私たちも真剣に考えなくてはなりません。

当社の副社長 戸崎が第46回関西財界セミナーで「地球温暖化に対する鉄鋼業の取り組みとポスト京都に向けた提言」というテーマで講演をしました。鉄鋼業のCO₂削減の取り組みについてご紹介します。

(株)住友金属直江津は、航空機用純チタンシートについて、航空宇宙分野における世界統一審査・認証プログラムである「Nadcap-HT (国際特殊工程認証制度-熱処理)」の認証を連続熱処理炉としては国内で初めて取得しました。これにより、航空機用純チタンシートの更なる拡販が期待されます。これからも皆さんに住友金属の話題をたくさんお届けできるようにがんばります。

目次

● 気候変動防止に向けて日本の省エネルギー技術を生かして
 <第46回関西財界セミナーで副社長 戸崎が「気候変動防止」について講演>

● 全世界に広がる私たちのチタン
 <航空機用純チタンシート製造における(株)住友金属直江津の熱処理工程について「国際特殊工程認証制度(Nadcap)」認証取得>

● 気候変動防止に向けて日本の省エネルギー技術を生かして
 <第46回関西財界セミナーで副社長 戸崎が「気候変動防止」について講演>

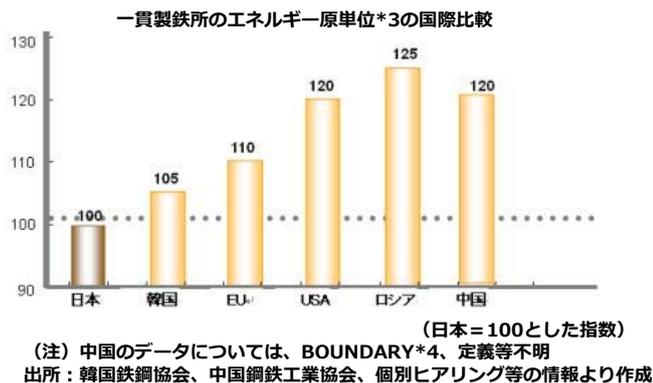
去る2月7日～8日に開催された第46回関西財界セミナーで、当社の副社長 戸崎が「地球温暖化に対する鉄鋼業の取り組みとポスト京都に向けた提言」というテーマで講演を行いました。

日本の鉄鋼業は、省エネルギー設備の普及や操業の効率化などにより、世界トップレベルのエネルギー効率を達成しています(下図参照)。当社のエネルギー効率は、我が国の高炉メーカーの中でトップクラスです。

京都議定書による温暖化ガスの削減義務を負っていない国々(中国、インド、韓国など)での鉄鋼生産は、世界全体の62.1%を占めており、これらの国々では鉄鋼生産により大量のCO₂が排出されています。我が国の省エネルギー技術を諸外国に移転することにより、世界全体でのCO₂削減に大きく貢献することができます。このような省エネルギー技術を世界に広げるために、産業界ごとのセクター別アプローチ、つまり各国の鉄鋼業同士が協調することが有効です。設備や技術の導入状況から相互の実態をすぐに理解し合え、また最適な技術利用の実施例を共有するなどの対策の検討が可能となります。

セクター別アプローチの具体的な活動例として、講演の中で、2005年7月にスタートした日中鉄鋼業による『日中鉄鋼業環境保全・省エネ先進技術交流会』、2006年4月に中国、インド、米国、豪州、韓国、日本の6カ国鉄鋼業で開始され、現在はカナダを含め7カ国が参加している『APP*1 鉄鋼タスクフォース』、また、2007年10月に正式にスタートした『IISIグローバルセクター別アプローチ(GSSA*2)』等の世界の鉄鋼業の様々な取り組みを紹介しています。

私たちは鉄鋼業界の一員として、これまでに培った省エネルギー技術を諸外国の鉄鋼業に積極的に移転し、さらにCO₂排出量削減に役立つような製品の開発も通じて、地球環境をクリーンにするために貢献していきます。



* 1 APP : クリーン開発と気候変動に関するアジア太平洋パートナーシップ (Asia-Pacific Partnership for Clean Development and Climate)。

* 2 GSSA : Global Steel Sectoral Approachの略。

* 3 エネルギー原単位 : 粗鋼1トン当たりの生産に必要なエネルギー消費量。

* 4 BOUNDARY : エネルギー原単位を算出する際の対象範囲。例えば電力を外部購入した場合にエネルギー消費量としてカウントするか否かなど。

● 全世界に広がる私たちのチタン
 <航空機用純チタンシート製造における(株)住友金属直江津の熱処理工程について「国際特殊工程認証制度(Nadcap)」認証取得>

チタンは、軽くて、海水中でも錆びにくく、強い耐食性を持っています。その特性からゴルフクラブヘッド、鍋やフライパン、また、肌にやさしいという特性もあるので腕時計やめがねにも使われており、皆様にも馴染みの深い金属のひとつではないでしょうか。

私たちと(株)住友金属直江津が連携して製造・販売しているチタンはその品質の高さから、航空機用に使われています。

去る1月21日、(株)住友金属直江津は、航空機用純チタンシートにおける熱処理工程について、航空宇宙分野における世界統一審査・認証プログラムである「Nadcap-HT (国際特殊工程認証制度-熱処理)」の認証を連続熱処理炉として国内で初めて取得しました。これで、私たちの熱処理プロセスが世界の航空機産業に認められることになり、万全な販売体制が整ったこととなります。今回の取得で、Nadcapウェブサイトに掲載されているQualified

Manufactures List(QML)という認証済みメーカーリストに(株)住友金属直江津の名前が登録され、全世界の航空機関連メーカーに認証取得が周知されます。2002年に長期契約を締結し、独占的に材料を供給してきたエアバス社殿への販売継続はもちろん、さらなる拡販に弾みがつくことになります。



Nadcap-HT 認定証とエアバス最新鋭機A380

Nadcapとは、National Aerospace and Defense Contractors Accreditation Programの略。航空宇宙分野における製品製造や修理に対する国際的な工程認証制度（国際特殊工程認証制度）のことで、大手航空機メーカーやエンジンメーカーのメンバーで構成されているPRI（Performance Review Institute）という機関が開発、運用しています。1990年に米国で始まり、2004年頃からアジアでも展開され、世界統一基準となりました。Nadcapが認定する特殊工程には、今回取得した熱処理の他、化学処理、非破壊検査などがあり、航空機メーカーはこれらの工程についてNadcap認定を要求しています。

私たちは、チタン事業をさらに強化するため、4月1日に純チタン薄板・厚板の製造・技術サービスを鋼板・建材カンパニーから(株)住友金属直江津へ移管します。これで製造・販売・技術サービスが一体化となった体制が整い、お客様へのさらなるサービス向上を図ります。

航空機需要は堅調で、今後20年間で製造機数は、現在の1.5倍になると言われています。また、機体の軽量化のための新素材（炭素繊維複合材）使用拡大にはチタンが必要で、機体大型化と相まってチタンの採用率、使用量は益々高まっています。今後もこの長期的に成長が見込まれる航空機用マーケットに着実に対応していきます。